

NL72 号

15. 2012-2014 年 期幹事会準備会および幹事会報告

社会政策学会 第1 回次期幹事会準備会 議事録

日時： 2012.2.11（土）16:25～17:00

場所： 駒澤大学【深沢キャンパス】講義室2-34

出席： 石井、玉井、久本、所、吉村、松丸、矢野、武川、平岡、田中、大沢

欠席： 菅沼、宮本、上原、阿部、佐口

1. 次期代表幹事の選出

次期代表幹事は、選出幹事の互選により、田中幹事に決定した。

2. 次期幹事会体制について

推薦幹事について、意見交換をおこなった。

社会政策学会 第2 回次期幹事会準備会 議事録

日時： 2012.4.21（土）14：00～16：00

場所： 立教大学

出席： 田中、阿部、石井、上原、榎、櫻井、菅沼、玉井、所、林、久本、廣瀬、松丸、吉村、山田

欠席： 大沢、斎藤、佐口、白井、武川、平岡、藤原、宮本、矢野

1. 次期幹事の確認

次期選出幹事および次期推薦幹事の確認と出席者の自己紹介を行った。

【選出幹事】

九州・中四国（2）

石井まこと、阿部誠

関西・北陸・東海（4）

玉井金五、久本憲夫、所道彦、吉村臨兵

関東甲信越（8）

菅沼隆、松丸和夫、矢野聡、武川正吾、平岡公一、佐口和郎、田中洋子、大沢真理

東北・北海道（2）

宮本太郎、上原慎一

【推薦幹事】

榎一江、斎藤悦子、櫻井幸男、白井邦彦、林祐司、藤原千沙、廣瀬真理子、山田和代

【事務局】

山田和代（推薦幹事・兼）

【会計監査】

遠藤公嗣

2. 次期幹事会体制について

次期幹事会の体制について、学会誌編集委員会、春季大会企画委員会、秋季大会企画委員会、広報委員会、国際交流委員会の各委員長および副委員長が承認され、学会賞選考委員（交代2名）、日本経済学会連合評議員、英文年報編集委員、学会史小委員会、会計監査の委員が承認された。

* 準備会の後に確定した具体的な体制については「16. 各種委員会委員」をご参照ください。

3. 次期活動方針について

これまでの学会の活動方針に加え、以下の3点を重視する活動方針を総会で提案することが承認された。

（1）国際交流委員会を通じた国際交流の活性化や海外の学会との交流協定へ向けた活動、海外への情報発信を強化していくことが承認された。英語をはじめとする各国語のホームページの作成とそのコンテンツについて、担当委員会として国際交流委員会、広報委員会、大会企画委員会が連携する必要があることが議論された。英語のコンテンツについては、大会企画委員会が会員より集め、国際交流委員会で英文のチェックなどを行い、広報委員会に送りホームページに掲載する方法がよいのではないかと議論された。

（2）学会の大会報告のプロシーディングの導入について、前向きに検討していくことが確認された。報告者の印刷負担の軽減や業績としてのカウント、開催校の負担軽減など、大会報告のプロシーディングをつくることの意義についての議論が行われ、大会企画委員会と外注との作業分担や予算面について

の具体的な検討を重ねていくこととなった。

(3) 地域社会やNPO とのネットワークづくりを継続、強化する方向が確認された。2012 年春季大会の共通論題「福島原発震災と地域社会」・「震災・災害と社会政策」や、2012 年秋季大会の共通論題の「新しい公共と社会政策」を継承し、学会としてこうしたネットワークを広げていく方向が承認された。

また、東日本大震災に関連する「特別プロジェクト」の提案が久本現代表幹事より代理提案された。この提案は、春季大会共通論題を引き継ぎ、2 年間の期限付きで、震災をめぐる地域・行政・NPO の活動について学会内でプロジェクトを立ち上げ、研究・記録・発信するという内容である。このプロジェクトについては現幹事会で検討され、春季大会総会で提案されることとなった。

4. 次期学会予算について

次期活動方針においては、今期の学会予算を踏襲しつつ、特に国際交流の活動を活性化するために、英文チェックなどの項目での配分を増やすことが提案され、承認された。また、大会ポスター費用について、大会企画委員会の費目に組み入れた。

5. 国際交流員会からの活動方針報告

菅沼次期国際交流委員長から、次期活動方針についての報告があった。ヨーロッパ、アメリカ、中国、韓国にそれぞれ担当者を置き、各地域における研究の国際交流の促進に向けて活動していくこと、英語のホームページを通じて学会から国際的に情報発信していくことが提案され、承認された。

東アジア地域については、韓国社会政策学会交流協定に基づく活動の実施と継続をすすめ、第1 回の韓国社会政策学会参加に際しては、会員2 名と並んで次期代表幹事を派遣することが承認された。中国など他のアジア諸国との研究交流の推進、および中国語・韓国語でのホームページ作成を検討していくことが議論された。

ヨーロッパやアメリカ地域での交流については、英語ホームページの充実をはじめ、これまでの学会におけるさまざまな国際交流の経緯・経験を踏まえた上で、会員から情報収集を行いつつ、研究交流や協定のあり方を検討していくことが提案され、承認された。

6. 広報員会からの活動方針報告

林次期広報委員長から、学会ホームページ、会員への電子メールによる情報提供、学会の広報活動業務を継続して行うことが報告された。また学会ウェブサイトのデザインが刷新されることが報告され、

刷新までのウェブサイト更新期間での掲載作業と会員メーリングリストへのメール転送作業についての担当の申し出があり、承認された。研究会情報ブログの更新頻度の予定が報告された。

7. 幹事会の開催頻度と場所について

前期の幹事会開催を踏襲し、夏季、秋季大会前日・当日、春季大会前日・当日、冬季に開催することが承認された

社会政策学会 第1 回幹事会 議事録

日時： 2012.7.8（日）14：00～17：00

場所： お茶の水女子大学

出席： 阿部、石井、榎、斎藤、佐口、櫻井、白井、菅沼、田中、玉井、所、久本、平岡、廣瀬、藤原、松丸、吉村、山田

欠席： 上原、大沢、武川、林、宮本、矢野

1. 秋季大会の企画について（秋季大会企画委員会）

石井委員長より、大会報告およびタイムスケジュールを含む大会プログラムについて詳細な説明があり、了承された。また秋季大会実行委員会の京谷会員から送られた資料をもとに、準備状況を確認した。

大会実行委員会より、共通論題「『新しい公共』と社会政策」とそれに連動する秋季大会企画委員会企画の分科会「地域における『新しい公共』の担い手ー長野県からの報告」について、一般市民の参加を促すため、春季大会同様に、一般参加費を無料にするかどうかの問い合わせがあった。審議の結果、共通論題に連動する秋季委員会企画を「特別分科会」とした上で、共通論題と特別分科会については、一般市民（研究者以外）の参加費を、資料代として各500 円（2 つで1000 円）とすることが決まった。

2. 大会参加費のネット振込について（大会実行委員会から）

大会参加費の支払いがネット振込で行われるケースが増え、その場合「支払項目」や振込者の連絡先が確認できない問題が生じている。今度の秋季大会では、ネット振込でも振込金額の内訳が分かるように、大会両日の弁当代金を同一価格にしないことで対処し、経過をみることに決まった。

3. 学会誌等所収論文の電子化にともなう故人論文の扱いと担当幹事について

故人の方については許諾についての返事がないことが予想されるが、故人であっても連絡先に依頼文を送り、その後返信の無い場合は、会員業績の周知を目的とする電子化事業であることから、故人の業績を一括して掲載することが了承された。電子化事業の担当幹事には斎藤幹事が推挙され、了承された。今後、斎藤幹事を中心に、執筆会員からの著作権の許諾を得る作業を開始することが確認された。

4. 機関リポジトリ（Web 上）への既刊論文の掲載について

学会誌『社会政策』での公刊から2年を経た会員の論文について、当該会員が所属する機関リポジトリへの掲載の許諾について問い合わせがあった。これについては、従来からの既刊リポジトリへの掲載に関する手続内容（1. 著作権を持つ学会としては認めるので、2. 著作権隣接権を持つ出版社への連絡・交渉は著者自身で行う）を踏襲することを確認し、了承した。

5. 社会政策学会・代表幹事・事務局の英語名称について

前幹事会において、学会名（現在、Society for the Study of Social Policy）、代表幹事名および事務局名（現在なし）の英文名称の検討についての要望があったことが報告された。今後、国際交流委員会で慎重に継続審議することになった。

6. 「特別プロジェクト」の件について

2012年春季大会の総会において、「社会政策学会特別プロジェクト「東日本大震災と社会政策」設置について」が提起され、了承されている。これについて、総会での意見を反映させた趣意書をつくって広報していくことを確認し、また今後のプロジェクトの運営体制のあり方について議論した。

7. 学会賞（学術賞）を2回以上受賞することについて（学会賞選考委員会から）

「社会政策学会賞表彰規程」第1条によれば、学会賞は作品ではなく会員を表彰することになっているため、2回以上の学術賞の受賞はないことが確認された。

8. 専門部会・社会的排除／包摂部会の設立申し出について

新しい専門部会として、社会的排除／包摂部会の設立の申し出が、同部会設立準備事務局（阿部誠会員、石井まこと会員、垣田裕介会員、中山徹会員、福原宏幸会員）からあったことが報告され、同部会の設立が了承された。

9. 入会申込み者について

9 名の入会希望者について審議を行い、入会を了承した。

10. 各委員会からの報告

【春季大会企画委員会】平岡委員長・榎副委員長より、2015年の春季大会の共通論題として「労働とジェンダー」（仮題）で行う予定であることが報告された。過去に、「ジェンダー」というタイトルのついた共通論題がなかったことも紹介された。

【春季大会実行委員会】白井実行委員長より、春季大会の進捗状況について報告があった。

【編集委員会】吉村委員長より、最新号（第4 巻2 号、通巻12号）の編集の進捗状況、2012 年6 月現在の論文投稿数や審査状況、発行スケジュール、研究レビュー執筆者について報告があった。

【国際交流委員会】菅沼委員長より、英文ホームページの充実にかかわって各種委員会との連携やコンテンツ担当者について説明があった。また、第125 回大会で、国際交流委員会企画の分科会「日韓においてフレキシビリティ戦略は労働市場改革の処方箋となりうるか」が日韓セッションとして行われることが報告された。今後の国際交流のあり方について、引き続き検討するとの報告があった。

【日本学術会議関連】大沢幹事の連絡により、日本学術会議第一部国際協力分科会主催の公開シンポジウム「高齢社会論の最前線」を社会政策学会が後援する件、および東日本大震災復興支援委員会の新たな3分科会設置の件が報告された。

11. その他

ジェンダー部会が部会員の名簿作成と部会参加の呼びかけを行う為、会員名簿を利用したい旨の問い合わせが、藤原幹事を通じてあった。専門部会規程第1 条に基づき、会員名簿の利用を了承した。

12. 韓国社会政策学会への参加について

2012 年6 月1 日開催の韓国社会政策学会に、日韓交流協定に基づいて初めて日本の会員が韓国に招待されて参加したことが、田中代表幹事から報告された。当日は代表幹事の挨拶、大沢真理会員による共通セッション報告、矢野聡・小笠原浩一会員による日韓セッションでの報告が行われた。

13. 各委員会の委員について

各委員会の委員について、幹事会メーリングリスト上で承認された内容（社会政策関連学会協議会協議員（5月31日幹事会ML承認）、春季大会企画委員会（6月30日幹事会ML承認）、秋季大会企画委員会（5月28日幹事会ML承認）、国際交流委員会（6月6日幹事会ML承認）、学会誌編集委員会（6月1日幹事会ML承認））を確認した。

*各委員会委員長、副委員長、委員については、「16. 各種委員会委員」をご参照ください。

14. 日本学術会議の公開シンポジウム「高齢社会論の最前線」への後援について。

大沢幹事より、日本学術会議が本年9月に企画している公開シンポジウム「高齢社会論の最前線」へ、本学会が後援団体として名をつらね、本学会会員に広報する件について提案があった。幹事会で意見を募った結果、異議がなかったため（6月20日幹事会ML承認）、本学会が後援団体になることを、同幹事を通じて回答した。

15. Cinii 掲載問題について

学会誌『社会政策』に所収された論文のWeb上での掲載について辞退を申し出る会員がでたが、その後調整した結果、当該会員から掲載の確認を得た。

16. 木元進一郎名誉会員の逝去

17. 第2回幹事会の予定

2012年10月12日（金）（大会前日）15時～18時

2012年10月13日（土）（大会1日目）（昼休み）

2012年10月14日（日）（大会2日目）（昼休み）

NL73号

10. 2012 - 2014 年期 幹事会報告

社会政策学会 第2回幹事会 議事録

日時：2012年10月12日 15:00～17:30

場 所： 上田情報ライブラリー セミナールーム

出 席： 阿部、斎藤、櫻井、菅沼、武川、田中、玉井、林、平岡、廣瀬、藤原、山田、矢野、京谷、遠藤（15 名）

欠 席： 石井、上原、榎、大沢、佐口、白井、所、久本、松丸、宮本、吉村

1. 入会申込み者について

入会希望者14 名について審議した結果、承認された。

2. 秋季実行委員会

京谷委員より、秋季大会（第125 回）の準備が順調に進んでいることが報告された。

3. 秋季企画委員会

藤原幹事より、秋季大会（第125 回）の準備状況が報告された。その中で、自由論題報告者の報告キャンセルについて、今後は学会ニュースレターで、報告キャンセル分について記録として掲載することが承認された。

今回の大会開催に当たり、秋季大会委員会の経費執行について議論した。来年度の秋季大会（第127 回大会、大阪経済大学）の共通論題の検討状況が報告された。

4. 春季企画委員会

平岡幹事より、2013 年5 月25、26 日に開催予定の次期春季大会の共通論題のタイトル「ジェンダー平等と社会政策」、報告者（遠藤公嗣会員、森川美絵会員、北明美会員）、趣旨について報告があり、承認された。なお、共通論題は2013 年5 月25 日午後に開催されることが承認された。

5. 国際交流委員会

菅沼幹事より、国際交流委員会企画分科会（2012 年10 月13 日開催、韓国社会政策学会との国際交流協定活動の1つ）の準備状況が説明された。また、開催に関連する経費を国際交流委員会活動費から支出することが確認された。

学会ホームページの英文化について、進行状況が報告された。

さらに、今後の国際交流活動として、ヨーロッパの社会政策ネットワークのエスパネット（The Network for European Social Policy Analysis）等やアメリカのLERA（Labor and Employment Relations

Association) との交流を進めることをめぐり、幹事間で情報・意見を交換した。

6. 広報委員会

林幹事より、学会ホームページの刷新状況について、今年度中の刷新に努めていることが報告された。また研究会情報のサイトについて、学会ニュースレターなどを通じて広報していくことが報告された。

7. 電子化事業

斎藤幹事より、8 月末日締め切りの学会誌の電子化にともなう許諾承認の返信状況について報告が行われ、今後、関係出版社と国立情報学研究所との連絡作業を進めていくことが報告された。

8. 社会政策関連学会協議会

武川幹事より、社会政策関連学会協議会主催で2012 年8月4 日に、「日韓両国における普遍主義論争」研究会が開催され、平岡公一幹事が講演されたことが報告された。

2013 年の社会政策関連学会協議会主催のシンポジウムについて、協議会から照会があった場合に、登壇者の推薦も含め幹事会として検討して欲しい旨の依頼があった。

9. その他

事務局より、第124 回大会（2012 年春季）の大会会計報告が資料として配布された。その他、学会名簿の送付予定の報告、次回幹事会（大会両日）、学会ニュースレターの発行について報告が行われた。

社会政策学会 第3 回幹事会 議事録

日 時： 2012 年10 月13 日 13：05～12：25

場 所： 上田女子短期大学

出 席： 斎藤、櫻井、菅沼、玉井、林、平岡、廣瀬、山田、矢野（9 名）

欠 席： 阿部、石井、上原、榎、大沢、佐口、白井、武川、田中、所、久本、藤原、松丸、宮本、吉村

1. 入会申込み者について

入会希望者1 名について審議した結果、承認された。

2. 編集委員会

吉村編集委員長から、学会雑誌の編集状況が報告された。

学会誌（通巻13 号）は2012 月12 下旬に発予定。論文投稿状況についても報告があった。小特集に英文論文を掲載することとし、編集委員会が作業を進めることとなった。

社会政策学会 第4 回幹事会 議事録

日 時： 2012 年10 月14 日 11：45～12：00

場 所： 長野大学

出 席： 大沢、斎藤、佐口、白井、玉井、久本、山田、吉村（8 名）

欠 席： 阿部、石井、上原、榎、櫻井、菅沼、武川、田中、所、林、平岡、広瀬、松丸、宮本、藤原、矢野、吉村

1. 入会申込み者について

入会希望者1 名について審議した結果、承認された。

2. 春季大会実行委員会

白井幹事より、第126 回大会の開催（於・青山学院大学、東京）での開催日時（2013 年5 月25、26 日）と会場状況が報告された。

NL74 号

7. 2012-2014 年期幹事会報告

社会政策学会 2012-14 年期第5 回幹事会・議事録

日 時：2013 年2 月2 日（土）14：00～18：00

場 所：立教大学・池袋キャンパス

出席：石井、榎、櫻井、白井、菅沼、田中、玉井、所、林、久本、平岡、廣瀬、松丸、山田、吉村

欠席：阿部、上原、大沢、佐口、齋藤、武川、藤原、宮本、矢野、遠藤

1. 入会申込み者について（事務局より）

入会希望者12名について審議した結果、承認された。

2. 春季大会企画委員会 *

平岡幹事より、春季大会（第126回）の準備状況が報告された。自由論題20件・分科会8件の応募について審議し、全件の採択が承認された。応募書類の英文要旨が不備なものについては、再提出を依頼し、対応を求めることが決まった。大会プログラム案（1日目共通論題・総会・懇親会等、2日目自由論題・テーマ別分科会）を決定した。共通論題の趣旨・報告の英文サマリーについても、今後加えていくことが決まった。春季大会の日本語プログラムおよび英語要旨については、準備出来次第、学会ホームページに掲載していくこととなった。

共通論題において、ヨーロッパ社会政策ネットワークから招待する研究者の特別報告を加えることが報告され、今後、国際交流委員会とともに通訳の体制を整備していくこととなった。

特別プロジェクトの分科会への非会員の参加費については、これまでの例にしたがって資料代500円とすることになった。

3. 春季大会実行委員会

白井幹事より、春季大会開催校の準備状況について、教室等の確保、予算関係、実施体制等が順調に進んでいることが報告された。

4. 秋季大会企画委員会

石井幹事より、2013年10月に開催予定の第127回秋季大会について、共通論題テーマ「居住と社会政策」（仮）、報告者（平山洋介氏、岡本祥浩会員、葛西リサ会員、所道彦会員）、趣旨について報告があり、現在準備を進めていることが報告され、承認された。

5. 秋季大会実行委員会

櫻井幹事より、第127回秋季大会は、2013年10月13、14日に大阪経済大学で開催することが報告され、承認された。

6. 編集委員会

吉村幹事より、学会誌第4巻3号（12月発行予定）の発行が2013年3月末まで遅延する予定となったこととその理由について報告があった。入稿期限を過ぎても届かない原稿を待っていたことが原因であったため、今後は、前幹事会での取決めに明確に適用し、「著者より原稿が提出されない場合は、編集委員長より幹事会に遅延の発生を報告し、編集委員長と著者の間で協議を行ったうえで、代表幹事が原稿の取り扱いについて総合的に判断する」（NL, No.67, p.11）ことを確認した。

所幹事と吉村幹事より、投稿論文の査読状況、学会誌の今後の刊行スケジュール、掲載予定の研究レビューなどについて報告があった。掲載予定論文が減っている状況に対応して、従来どおり春季・秋季大会の後に編集委員長・企画委員長から自由論題報告者に投稿の呼びかけを行うだけでなく、各座長からも直接投稿呼びかけを行うこととなった。

学会誌掲載論文の内容について事実誤認の指摘が連絡されてきた件について、論文等において見解の表明を行っていただくよう編集委員会に対応したとの報告があった。

7. 国際交流委員会

菅沼幹事より、学会の国際交流の進展についての報告があった。一つめとして、田中代表幹事の仲介により、ヨーロッパ社会政策ネットワーク（ESPAnet, <http://www.espanet.org/>）との研究交流を開始することになったことが報告された。

その最初の試みとして、オビエド大学のギレン（Ana M. Guillen Rodríguez）氏を招待することとなり、共通論題において、「ヨーロッパ社会政策とジェンダー」というテーマで報告していただくことが承認された（注記. その後、ギレン氏の事故のため、報告者はバルセロナ大学のマルガリータ・レオン（Margarita Leon）氏に変更された）。

当日の総括討論に加わっていただくための日英通訳については、国際交流委員会と春季大会企画委員会で、今後通訳ボランティアのプールをつくるなどの体制づくりを検討していくこととなった。

二つめとして、田中代表幹事の仲介により、アメリカ雇用労働関係学会（LERA, <http://www.leraweb.org/>）と、今後相互交流を行っていくことで合意したことの報告があった。2014年の春季大会に、同学会からの研究者の招聘をすることが承認された。

また、田中代表幹事より、ESPAネットとLERAから、それぞれの大会に社会政策学会からも積極的に応募してほしい旨の連絡を受けているとの報告があり、今後学会ホームページなどで伝えていくこととなった。

英文ホームページのコンテンツ作成作業については、現在進行中であり、過去の大会の共通論題テーマについてはほぼ完成したとの報告があった。大会プログラムの英文コンテンツを含め、英文ホームページの公開・拡充が広報委員会との連携で行われる予定となった。その際、ESPA ネットやLERA のホームページなども参照すべき例としてあがった。

その他、国際交流を進める際に、国際交流委員会の分担、通訳体制、予算など今後いくつかの課題があることが報告された。

8. 広報委員会

林幹事より、現在、日本語ホームページが更新作業中であるとの報告があった。英文ホームページのコンテンツの豊富化をさらに進めることや、予算措置の検討が要望としてあがった。

9. 日本経済学会連合関係

玉井幹事より、日本経済学会連合による、外国人研究者の招聘、国際会議の開催、学会会合にかかわる費用の助成が現在募集中である旨が報告された（この件は学会ホームページに掲載中である）。

10. 電子化事業について

齋藤幹事の資料より、現在、学会誌の電子化作業を進めており、各出版社から電子化事業への承諾の返事を待っている状況であることが報告された。今後、電子化に向けての作業内容などについての情報交換が行われた。

11. その他 **

今後の大会の開催にあたり、まだ場所が決定していない大会については、早急に開催校を選定し、そのための協力依頼を行っていくことが確認された。

事務局より、2012 年の第125 回秋季大会（長野大学）の大会会計報告を配布し、学会ニュースレターの発行予定や次回の幹事会日程（5 月春季大会の前日および大会両日）の報告が行われた。

* 第126 回春季大会（青山学院大学）の大会プログラムについては、今後発送予定の大会プログラムの冊子をご確認ください。

** 第125 回秋季大会（長野大学）の大会会計報告は、大会報告と合わせ学会ニュースレターの近号に

掲載いたします。

NL75号

15. 2012-2014 年 期 幹 事 会 報 告

社会政策学会 2012-14 年 期 第 6 回 幹 事 会 議 事 録

日 時：2013 年 5 月 24 日（金） 14：00～18：00

場 所：青山学院大学・青山キャンパス 14 号館（総研ビル）第 15 会議室

出 席：阿部、榎、齋藤、櫻井、白井、菅沼、田中、玉井、所、林、久本、平岡、廣瀬、藤原、山田、
矢野、吉村、服部

欠 席：石井、上原、大沢、佐口、武川、松丸、宮本、遠藤

1. 入会申込み者について

入会希望者20 名について審議した結果、承認された。

2. 学会賞選考委員会

服部良子学会賞選考委員会委員長より、第19 回（2012年）学会賞選考委員会報告について詳細な説明が行われた。

2012 年度は、学術賞の該当者は無し、奨励賞は、福澤直樹『ドイツ社会保険史― 社会国家の形成と展開』名古屋大学出版会、横田伸子『韓国の都市下層と労働者― 労働の非正規化を中心に』 ミネルヴァ書房、吉田健三『アメリカの年金システム― アメリカの財政と分権』 日本経済評論社、の3 名との報告がなされ、幹事会で承認された。

服部委員長より、次期選考委員会において、情報の引き継ぎを強化していくこと、著作リストアップのための予算計上が必要なこと、選考範囲・選考基準について継続的な審議が必要なことなどの提案が出され、承認された。

3. 春季大会企画委員会

平岡幹事より、5 月25 日、26 日開催の第126 回大会の共通論題、特別講演、分科会、自由論題の準備状況について、順調に進行している旨の報告があった。

4. 春季大会実行委員会

白井幹事より、5 月25 日、26 日開催の第126 回大会の開催にあたり、順調に準備が進んでいる旨の報告があった。

5. 秋季大会実行委員会

櫻井幹事より、今秋の第127 回大会（大阪経済大学、10 月13 日（日）、14 日（祝日））の開催準備状況について順調に進んでいる旨、報告があった。

6. 編集委員会

吉村幹事より、第5 巻第1 号の発行準備状況、今年度の発行スケジュールについて報告があった。

学会誌の表紙デザインについて表紙案が提示され、今後編集委員会のもとで社会政策学会への関心を

高めるような方向でデザイン案について検討し、ミネルヴァ書房との具体的協議を進めていくことが確認された。

小特集や投稿論文に関して、応募・投稿は順調にあるものの、募集から掲載まで時間がかかっていること、最終的な査読結果がでるまでのプロセスが複雑化している状況が報告された。

7. 国際交流委員会

菅沼幹事より、ESPA net（ヨーロッパ社会政策分析ネットワーク）との交流について、今春大会におけるMargarita Leon教授（バルセロナ自治大学）の公式招聘、共通論題報告に至った経緯、通訳・アテンドの準備状況などについて説明があった。通訳は、室田信一会員、田中弘美さん（同志社大学・院）、加瀬希和子さん（お茶の水女子大学・院）にお引き受け頂き、別室にて通訳作業をすることになった。招聘に関して旅費・宿泊にかかわる課題が報告された。

韓国社会政策学会との国際交流協定に基づく派遣報告者については、岡本英男会員、高田一夫会員の2名の応募があり、審査のうえ採択した。韓国社会政策学会との交流協定については、幹事会メンバーで稟議をし、内容を変更せず2年間延長するという意向を韓国側に伝えた。

日韓交流協定の更新のため田中代表幹事が5月31日開催の韓国社会政策学会に参加し、調印する予定であることが報告された。

秋季大会における韓国社会政策学会会員を招待した分科会の企画運営については、今後、専門部会で持ち回りで行う_方向で専門部会に諮ることにし、2013年秋の大会については日本・東アジア部会に依頼することとした。

アメリカの学術団体との交流では、LERA（アメリカ労働雇用関係学会）との研究者交流を進めるため、2014年第128回大会での招聘を進めている予定である旨の報告があった。

学会ホームページの英文化では、広報委員会の協力にもとづいた共同作業によって、第126回大会の英文プログラムのアップが実現したことの報告があった。

現在、過去大会共通論題（李蓮花・国際交流委員会委員）と学会誌論文目次（廣瀬真理子・国際交流委員会副委員長）による英文化作業を進めており、今後、英文ページの更なる公開を予定している旨の報告なされた。

8. 広報委員会

林幹事より、学会の日本語ウェブサイトについて2012年度末に刷新作業が完遂し、デザインの一新、CMSの導入がなされた旨の報告があった。

学会の英文ウェブサイトについては、今後、学会概要、大会報告のアブストラクト、学会誌（現行）英文アブストラクトへのリンクなどの英文コンテンツを継続的に作成し、英文サイトの充実をはかっていくことなどが確認された。

また、学会メーリングリストについて大会報告の募集などに使用していくことが確認された。

9. 日本経済学会連合関係

玉井幹事より、日本経済学会連合による外国人学者招聘滞日補助、国際会議派遣補助、学会会合費補助の2次募集について報告があった（現在学会ホームページに掲載中）。

10. 電子化事業について

齋藤幹事より、現在の学会誌の電子化事業について、各出版社からの電子化事業承諾の返答状況、データ可の進捗状況が報告された。

ミネルヴァ書房と有斐閣については可、御茶の水書房は否、法律文化社については条件をつめていくこととなった。

今後、作業にともなう事業予算を執行して推進することが確認された。

11. 名誉会員の推挙について

名誉会員については、次回大会総会までに引き続き推挙者の検討を行う旨を確認した。

12. その他

田中代表幹事より、来春大会開催校の打診状況について報告があり、なお開催校が決定していないため、早急な決定が必要であるとの報告があった。今後も引き続き協力依頼を進めるとともに、開催校の負担軽減のため予算増額で支援していくことが確認された。

田中代表幹事および事務局より、総会資料（案）について報告があった。特に、2013年度の活動方針案および予算案について議論し、大会開催校の負担軽減、学会賞にかかわるリスト作成費、海外からの招聘にかかわる国際交流関係費に対応できる予算案を作成する旨が確認された。また、2012年度の決算報告書（監査日2012年5月11日、遠藤公嗣・会計監査）について確認が行われた。

事務局より、武川幹事作成の社会政策関連学会協議会に関する2012年度活動報告資料を配布した。

また、学会ニュースレターの発行予定や次回幹事会の日程調整が行われた。

社会政策学会 2012-14 年期第7 回幹事会議事録

日 時：2013 年5 月25 日12：50～13：40

場 所：青山学院大学・青山キャンパス14 号館（総研ビル）第15 会議室

出 席：阿部、石井、齋藤、櫻井、白井、田中、玉井、所、久本、平岡、廣瀬、藤原、山田、矢野、吉村

欠 席：上原、榎、大沢、佐口、武川、菅沼、林、松丸、宮本、遠藤

1. 秋季大会企画委員会

石井幹事より、今秋の第127 回大会「居住保障と社会政策」（大阪経済大学、10 月13 日（日）、14 日（祝日））の進捗状況と、学会ホームページにて自由論題・テーマ別分科会の応募が行われている旨の報告があった。

今後、広報委員会を通じて、学会メーリングリストでも応募の呼びかけることが確認された。同大会での書評分科会の進捗状況とプログラム発行のスケジュールについて説明があった。

共通論題報告のフルペーパー印刷・郵送について、報告者および開催校の負担を考慮し、業務委託の選択肢もあり得ること、その場合、企画委員会予算からの執行ができる旨の確認を得た。

2. 予算案について

田中代表幹事および事務局から、2013 年度活動方針を反映した予算案が報告され、承認された。

社会政策学会 2012-14 年期第8 回幹事会議事録

日 時：2013 年5 月26 日12：10～12：30

場 所：青山学院大学・青山キャンパス14 号館（総研ビル）第15 会議室

出 席：榎、大沢、齋藤、櫻井、菅沼、田中、玉井、久本、平岡、廣瀬、山田、矢野、遠藤

欠 席：阿部、石井、上原、佐口、白井、武川、所、林、藤原、松丸、宮本、吉村

1. 大会開催中の連絡事項について

大会開催校からの連絡事項として、報告の際のパソコン操作については、報告予定時間の前に各自が確認すること、開催校においては、提出〆切後の報告レジュメ・原稿の保管と不足分のコピー印刷は対応が困難であるため、報告レジュメ・原稿は提出〆切を過ぎた場合には報告者が当日指定部数を直接会場に持参することを徹底してほしい旨の要望があった。

また、大会参加費等の前納者が少なく、当日朝の受付に長い列ができて混乱が生じたため、今後は参加費の前納を周知徹底する必要があるとの提案があった。

NL76 号

10. 2012-2014年期幹事会報告

社会政策学会2012-14年期幹事会・議事録

日時：2013年7月6日（土）14：00～17：35

場所：お茶の水女子大学・本館カンファレンスルーム

出席：阿部、石井、榎、斎藤、櫻井、白井、菅沼、田中、玉井、所、平岡、廣瀬、山田、矢野、吉村、
宮本悟会員（2014年春季大会実行委員会事務局）

欠席：上原、大沢、佐口、武川、林、久本、藤原、松丸、宮本、遠藤

1. 入会申込み者について

入会希望者9名について審議した結果、承認された。

2. 春季大会企画委員会

平岡幹事より、来春大会の共通論題企画のあり方について、招聘する海外研究者の報告と通訳との関係を今後どうするかについて議論が提案された。海外研究者の報告内容について、外部委託を通じてプロジェクト同時表示やディスカッションのみ通訳する可能性も議論されたが、今後は日本側の共通論

題報告者の報告内容を長めのサマリー等で事前に海外研究者に伝えるなど、事前準備を充実していく方向で進めることになった。ディスカッションなど通訳の範囲については、今後春季企画委員会において、幹事会での議論を踏まえて検討していくことになった。また、海外研究者を招聘するにあたり対等な交流を進めるため、日本からもESPAnetやLERAのセッションへの派遣を進める形で交流を深めていくべきとの意見が出て、今後検討していくこととなった。

菅沼幹事より、大会フルペーパーをウェブ上にアップする方法が提案されたのを受け、テーマ別分科会・自由論題分科会のフルペーパーを、大会開催に合わせて会員限定、期間限定で学会ホームページ上に公開していく方法が検討された。その結果、今後会員に周知を行い、来年の春季大会からこの方法に移行することが確認された。当日のレジュメについては、報告者が持参することとなった。

これにより、報告者のフルペーパー印刷・配布の負担や、開催校によるフルペーパーの管理・移動等の負担が大きく軽減されることが見込まれる。手順としては、報告者から春季大会企画委員会へ、企画委員会から広報委員会へデータを送ることが確認され、今後詳細をつめていくことになった。

3. 春季大会実行委員会

白井幹事から、2013年度の春季大会報告および会計報告があった。393人の参加と131人の懇親会参加があったことが報告された。次の開催校への引継事項として、事前申込みの減少（184人）の改善、当日受付への人員の増加、書籍販売を行う各出版社による搬入作業の徹底、受付期間外のフルペーパー等の対応を開催校で実施しないことの徹底、共通論題報告のフルペーパー事前提出の徹底の必要性が指摘された。

今後、事前申込みを促進するため、振込用紙に払込締切日を印刷ないし同封する、参加費を500円、懇親会費を1000円、当日支払金額より安くするなどの措置をとることになった。

2014年春季大会開催校の中央大学から宮本悟会員が幹事会に出席され、開催準備に向け実行委員会を立ち上げ、準備が開始された旨の報告があった。2014年の春季大会は5月31日・6月1日の予定となった。

4. 秋季大会企画委員会

石井幹事より、2013年10月13日・14日に行われる秋季大会プログラム案（共通論題、テーマ別分科会7件、自由論題28件、大会プログラム）について報告があり、承認された。8月半ば以降にプログラム・ポスターが発送予定であるとの報告があった。また、大会前日に、日本学術会議・大阪経大会主催のプレ・シンポジウム「現代日本におけるワークライフバランスを考える－関西からの発信」（10月

12日午後6時～8時）、大会1日目に、役員選挙関連の臨時総会（10月13日5時10分～）が予定されているとの報告があった。

また、来年度に向けての改善点として、書評分科会の評者選定の進め方について、執筆者への事前の情報提供を行うことになった旨の報告があった。

来年度2014年の第129回秋季大会は、岡山大学で開催されること、再来年度2015年の第131回秋季大会は、西南学院大学（福岡）で開催されることが確認された。

5. 秋季大会実行委員会

櫻井幹事より、2013年秋季大会の大阪経済大学での開催準備について順調に進めている旨の報告があった。また大会報告に係る報告ペーパー等については受付期間以外での対応をしないこと、開催時のレジュメ等のコピー対応は従来の原則に沿い実施しないことが確認された。大会1日目の総会後は、懇親会会場にバスで移動するとの報告があった。

6. 編集委員会

吉村幹事より、学会誌第5巻第1号が9月下旬に発行予定であること、また続巻の発行スケジュールについて報告があった。所幹事より、投稿論文の審査状況について説明があった。

また、学会誌の装丁について、第6巻からの刷新を目指して、ミネルヴァ書房と年内までに具体案を詰め、幹事会で決定していくことが確認された。

7. 国際交流委員会

菅沼幹事より、2012年春季大会でのヨーロッパのESPAnetから招聘したレオン教授の共通論題での報告について、全体として良好な評価であった旨が報告された。レオン教授と通訳者との関係もうまくいったが、通訳の負担を考えるとディスカッションの通訳ができなかったという問題が残った。ESPAnetとの今後の関係については、9月のESPAnetの大会に菅沼国際交流委員長と田中代表幹事らが参加して調整することとなった。

アメリカのLERAとの交流については、来年春季大会に研究者を招聘することになっているが、それにとどまらず日本からのセッション参加も視野にいれていくことになった。

国際交流委員会の体制強化については、委員増員よりも、通訳サポート体制を強化することで対応し、英語をはじめ韓国語・中国語などで対応できる人に「国際交流支援員」として登録してもらうことなどを検討していくとの報告があった。

5月にソウルで行われた韓国社会政策学会では、日韓セッションとして日本から2名の会員の報告があったほか、日韓交流協定が田中代表幹事と李会長の署名により更新された。

また秋季大会で韓国人研究者を招聘する韓国交流分科会については、春季大会企画委員会を通じて、専門部会に持ち回りで企画を進めてもらえるよう、依頼することが確認された。

中国との交流の進展について日本・東アジア部会から国際交流委員長に強い要望があった旨の報告があり、今後関係者と密に意見交換していくことになった。

過去大会の共通論題の英文化については順調に進んでおり、確認作業を済ませて秋季大会までにはホームページ上で発信できる予定であることが報告された。

8. 電子化事業について

斎藤幹事より、電子化事業に係わって法律文化社の承認を得たとの報告があった。

9. その他

田中代表幹事より、学会賞選考委員会について清水耕一会員、宮坂順子会員、横田伸子会員が新たな委員として報告され、承認された。

田中代表幹事より、学会誌装丁案、学会ロゴ案について予備費を使って検討する旨の提案があり、承認された。

田中代表幹事より、今後の大会開催校について2013年秋季は大阪経済大学、2014年春季は中央大学、2014年秋季は岡山大学、2015年秋季は西南学院大学が確定した旨、報告があった。2015年春季については、お茶の水女子大学での開催が打診され、斎藤幹事から平岡幹事と相談の上、検討を試みるとの回答があった。

事務局より、学会NL76号を8月末～9月初めに発行する予定であり、掲載内容は2013年秋季大会プログラム、2012年春季大会報告・会計報告、学会賞選考委員会報告、各部会活動報告等になる予定であるとの連絡があった。

次回幹事会は、大会前日の2013年10月12日午後2時～5時、大阪経済大学にて開催することに決定した。

NL77号

7. 2012 -14 年 期 幹 事 会 議 報 告

社会政策学会2012-14 年 期 幹 事 会 ・ 議 事 録

第10 回 幹 事 会

： 2013 年10 月12 日14：00～17：30

場 所： 大阪経済大学・C 館6 階地域活性化支援センター

出 席： 阿部、斎藤、桜井、菅沼、田中、玉井、所、林、久本、平岡、廣瀬、藤原、山田、矢野、吉村、新井（選挙管理委員長）

欠 席： 石井、上原、榎、大沢、佐口、白井、武川、松丸、遠藤

1. 入会申込み者について

入会希望者4 名について審議した結果、承認された。

2. 秋季大会企画委員会

藤原幹事より、第127 回秋季大会（大阪経済大学）の開催にあたり、共通論題「居住保障と社会政策」の報告者のフルペーパーの印刷・袋詰め作業を初めて業者に委託して行ったこと、またその費用について報告があった。

第 129 回秋季大会は、2014 年10 月11 日（土）、12 日（日）に岡山大学で開催されること、会場の都合により、10 月11日に共通論題、10 月12 日に自由論題・テーマ別分科会を開催する予定との報告があった。共通論題テーマは、今後の秋季大会企画委員会で決定する。

2015 年の第131 回秋季大会は、西南学院大学（福岡）で開催することが確認された。

3. 秋季大会実行委員会

桜井幹事より、明日から開催される第127 回秋季大会の準備状況について、順調に進んでいる旨の報告があった。また会場や懇親会場（バス送迎）への誘導を滞りなく進める体制であるとの連絡があった。

4. 選挙管理委員会

新井美佐子・選挙管理委員長より、10 月12 日10 時より開票作業が行われた役員選挙の開票結果の報告が行われ、確認作業の後、承認された。大会期間中の10 月13 日予定の臨時総会にて開票結果を配布することとなり、配布資料の作成依頼があった。

5. 春季大会企画委員会

平岡幹事より、来年度の第128 回春季大会を2014 年5 月31 日、6 月1 日に中央大学多摩キャンパスにて開催することが確認された。同春季大会より、フルペーパーの電子化を進めることになったため、報告募集スケジュールを若干前倒しにする案が提案された。

フルペーパーの電子化については、業者委託ではなく、春季大会企画委員会から担当者4 名を選任してメール提出を受け付ける体制を整えている旨の報告があった。

今回の報告募集から大会までのスケジュールは、平岡幹事からの提案と幹事会での議論にもとづき、以下のように認められた。

- ・ 12 月25 日応募書類ファイル送付（日本語・英語）締切
- ・ 2014 年5 月7 日フルペーパーのファイル送付締切（その後アップロード作業、掲載確認作業）
- ・ 2014 年5 月21 日（大会10 日前） 学会員に学会メーリングリストでURL とパスワードを送付。
会員はフルペーパーを各自で随時閲覧、ダウンロード、印刷
- ・ 2014 年5 月31 日・6 月1 日（大会当日） 報告者は所定部数のレジュメを各自で持参・配布（開催校では印刷対応不可）

報告フルペーパーは、事前に送布するURL にパスワードを入力（大会プログラムに同封、学会メー

リングリストでも一斉送付)することで、大会10 日前から大会後2 週間後までダウンロードが可能となるようにする。

なお、非会員の大会参加者は、大会時に掲示されるURLとパスワードを使い、大会当日から大会後2 週間の期間に閲覧できるようにする。

今回の大会フルペーパーの取り扱いの変化、それに伴う応募スケジュール等の変更については、重要な事項であるため、繰り返し会員に周知徹底することが必要であるとの意見がだされ、今後さまざまな機会を利用して、田中代表幹事からアナウンスを行っていくこととなった。

第 128 回大会の共通論題については、2014 年5 月31 日(土)に開催予定との説明があった。また、共通論題のテーマは、「社会改革思想と現代社会政策(仮)」であると報告があった。座長・平岡幹事、他1 名(未定)、報告者は田中拓道会員、若森みどり氏(交渉中)、玉井金五会員、指定討論者は深沢敦会員、武川正吾会員(交渉中)を予定している。

また、アメリカの労働雇用関係学会(レラLERA)の研究者による報告を予定しているが、それを共通論題の中に組み込むか、特別講演として別個に行うかについて調整する必要がある。これについては、春季大会企画委員会から共通論題の具体的企画案をだしてもらい、改めてLERA と調整することとなった。

6. 編集委員会

吉村幹事より、学会誌第5 巻第1 号がまもなく発行であること、第5 巻第2 号が12 月に発行予定であること、また続号の発行スケジュールについて報告があった。

学会誌の小特集について、投稿論文数を増やすという意味からも、また頁数を抑えるという意味からも、今後は1 号につき1 本のみを掲載する案について提案があり、了承された。

同時に、研究レビューについても、今後再び掲載していく旨の報告があった。

第 5 巻第3 号に、創刊から第5 巻までの投稿論文査読者名を掲載していくことについて提案があり、了承された。

7. 国際交流委員会

菅沼幹事より、9 月5 日～7 日開催されたヨーロッパ社会政策分析ネットワーク(エスパネット ESPAnet)の大会に、田中洋子代表幹事と菅沼幹事が参加し、滞在中にKnjin 代表、Mao代表、Leon 教授、Nadine Schoenck-Voss 秘書と会談し、ESPAnet と社会政策学会の今後の交流を積極的に進めていくことについて合意がなされたことが報告された。

今後、相互にリンクを貼ることやESPAnet 会員が日本の大会に応募・参加する場合には、英語セッションを設けることとなった。また同大会での報告、運営、レセプション、パーティー、アトラクションなどの様子について報告があった。

また、こうした学会間の学术交流の新しい潮流について、より積極的に会員に周知していくことが重要であるとの意見がだされ、田中代表幹事より、会員へ学术交流への参加への呼びかけを行っていくこととなった。また、ESPAnet から日本の大会への応募があった場合には、さしあたり国際交流委員会が窓口として受け付け、英語セッションのコーディネートを行っていくこととなった。

韓国社会政策学会との交流協定については、今秋季大会にゲストを招いて分科会を行うことが報告された。来年度の秋季以降の分科会については、春季大会企画委員会に集まる専門部会の代表の委員を通じて、韓国との交流セッションを専門部会が持ち回りでもつことを調整することが確認された。

アメリカ労働雇用関係学会LERA との交流については、来年の春季大会に研究者を招聘する方向で話が進んでおり、関口定一国際交流委員と田中洋子代表幹事が窓口として交渉に当たることとなった。

招聘者の報告を共通論題に入れるか、特別講演とするかについては、春季大会企画委員会の共通論題案との調整の上で進めることとなった。

交流をもつ上記3つの学会との交流を深めるために、今後、現地での会員の報告参加を学会が支援するため、学会が報告者の大会参加費を援助するなど、その方法を具体化していくこととなった。これに関連して、「国際交流旅費規程」のあり方も検討する必要がある点が指摘された。

学会ホームページ上での英文化コンテンツについては、広報委員会の全面的な協力のもとで、「代表幹事挨拶」、「2013 春秋大会プログラム」、「過去大会共通論題」を英文でアップしたとの報告があった。今後は、過去年報論文の英文化コンテンツを掲載予定である。

また、ESPAnet や韓国社会政策学会との交流についても、学会ホームページ上で広報していくことになった。

8. 広報委員会

林幹事より、今後は英文サイトの充実を進める旨の報告があった。

9. 電子化事業について

斎藤幹事より、学会誌掲載論文の電子化作業と国立情報研究所NII との申し合わせの手続きがすべて完了したとの報告があった。掲載論文は論文著者の同意済みの分、および啓文社、法律文化社、ミネル

ヴァ書房（御茶ノ水書房は除く）に掲載分である。

今後は国立情報研究所NIIでの公開作業となるが、その作業終了は約1年後との連絡がきており、本会員が学術情報データベースCiNiiで検索可能となるのもその時期になるとの説明があった。

10. その他

2015年の春季大会開催校の候補のお茶の水女子大学の会場について平岡幹事から報告があり、今後開催環境を整える可能性について引き続き検討していくこととなった。

事務局から、臨時総会の議案について提案があり、承認された。また今後の学会NLの発行内容と時期について連絡があった。

第11回幹事会

日時：2013年10月13日11:50～12:15

場所：大阪経済大学・C館6階地域活性化支援センター

出席：阿部、斎藤、桜井、田中、玉井、林、松丸、山田、矢野、吉村、遠藤、新井（選管委員長）、宮本悟（2014年秋季大会実行委員会事務局）、布川（特別プロジェクト暫定座長）

欠席：石井、上原、榎、大沢、武川、佐口、白井、菅沼、所、久本、平岡、廣瀬、藤原

1. 入会申込み者について

入会希望者2名について審議した結果、承認された。

2. 来春の第128回大会について

宮本悟会員より、第128回春季大会を2014年5月31日、6月1日に中央大学で開催する旨の報告があり、再度確認された。大会準備状況については、口座開設を終え、今後準備に入るとの説明があった。

3. 特別プロジェクトについて

布川会員より、東北部会のメーリングリストを利用しながら、特別プロジェクトに関する第1回研究会を8月8日福島大学で開催した旨の報告があった。今後、第2回研究会が11月23日にTKP仙台西口ビジネスセンターで開催予定である。

報告内容としては、雇用に関する調査報告と今後の研究会課題についての意見交換を予定している

当研究会活動について学会ニュースレターやホームページで広報し、幹事会や会員からの参加を求める旨の要請があった。

4. 選挙管理委員会

新井選挙管理委員長より、臨時総会で報告する開票結果の配布資料の最終確認が行われ、承認された。

第 12 回幹事会

日 時： 2013 年10 月14 日12：40～13：25

場 所： 大阪経済大学・D 館74 教室 12：40～13：25

出 席： 斎藤、桜井、菅沼、田中、玉井、久本、平岡、廣瀬、山田、吉村、横田伸子（学会賞選考委員会委員）

欠 席： 阿部、石井、上原、榎、大沢、佐口、白井、武川、所、林、藤原、松丸、矢野、遠藤

1. 国際交流委員会

菅沼幹事より、ESPAnet 大会への参加支援として、大会参加費（約3 万円）を支給し、支給条件を先着3 名（会費の未納・滞納がないこと）（報告者限定）とするとの提案があり、今後規定を整備していくこととなった。なお、報告申請が不採択の場合は支給しない。本学会への応募期間はESPAnet の大会参加の受付期間と同じとする。

また、韓国との国際交流協定に基づく分科会の通訳料・翻訳料については、日韓・韓日のフルペーパー翻訳の謝金（2万円）、パワポなど短いものの翻訳（1 万円）とし、負担を考慮してフルペーパーの上限はA4×10 ページ程度とするとの提案があった。いずれの支援体制についても、提案内容にそって進めることとなった。

韓国社会政策学会との交流分科会を担当する部会については、専門部会の「持ち回り」で行うこととなっているが、具体的には、春季企画委員会において担当部会を決定し、複数の部会から希望が出た場合は企画委員会がテーマ等を検討して優先順位を決めることとなった。

中国との学術交流については、当面交流協定は締結せず、現在学会員が関与している中国の複数の学会・大会との交流を進めていくこととなった。ESPAnet との交流のように、ゆるやかな会員同士のネットワークを通じて交流していく方針が了承された。

国際交流委員会は今後も5 名体制で行っていくが、それに加えて、通訳・翻訳・アテンドに関して、

大学院生や一般会員からなる「国際交流支援員（仮称）」を設置することが提案され、認められた。支援員への謝金については、今後ルール化が必要との課題が指摘された。

国際交流旅費規程に基づく旅費支給について、東アジア部会の朴光駿会員から、来春大会の同部会で韓国からのゲストの招聘要請があり、現行の国際交流旅費規程に基づき支出することが適当ということになった。なお、国際交流旅費規程は段階的な手続きを要するため、

申請受付と採否については国際交流委員会が行い、幹事会_には報告事項とすることが確認された。

2. 学会賞選考委員会

横田会員より、今期の学会賞選考委員会委員長は禹宗杭会員に決定したとの報告があった。今後の学会賞選考に向けた文献リストの作成にあたっては、計上された予算を使って作業を進めていくことになった。

選考する文献の範囲については、日本語文献だけでなく英語文献も含める必要性がでてきているが、英語文献については自薦・他薦にしてはどうかという意見が出たため、学会賞選考委員会にて検討することとなった。推薦を周知するためには、学会メーリングリスト、学会ニュースレター、ホームページに掲載し、広報することが必要との意見がでた。

8. 2012-14 年 期幹事会議報告および次期幹事会準備会報告

社会政策学会2012-14 年 期幹事会・議事録

第 13 回幹事会

日時： 2014 年1 月16 日14：00～17：30

場所： 立教大学・池袋キャンパス、12 号館2 階会議室

出席： 阿部、石井、佐口、斎藤、桜井、菅沼、田中、玉井、所、林、久本、平岡、廣瀬、藤原、山田、吉村、遠藤、宮本悟（2014 年春季大会実行委員会事務局）

欠席： 上原、榎、大沢、白井、武川、松丸、宮本、矢野

1. 入会申込み者について

入会希望者6 名について審議した結果、承認された。

2. 春季大会企画委員会

平岡幹事より、第128 回春季大会（中央大学）の開催（5 月31 日、6 月1 日）にあたり、共通論題の準備状況や自由論題とテーマ別分科会の申込み状況について説明があった。例年より少し早く12 月25 日に締切を設定したためか、分科会応募が少なかったもので、1 月24 日締切で急遽追加募集を行ったこと、その結果、新たに6 件（専門部会2 件、一般会員4 件）の応募があったことが報告された。また、共通論題は5月31 日に「社会改革思想と現代—社会政策の思想的基盤を問う」をテーマに行われることが報告された。座長2 名（平岡公一会員、堅田香緒里会員）、報告者3 名（田中拓道会員、若森みどり氏、玉井金五会員）、指定討論者2 名（深澤敦会員、武川正吾会員）を予定している。

また同日、アメリカのLERA（労働雇用関係学会）からの代表者として、UCLA のサンフォード・シヤコビー氏を迎え、特別講演が行われることとなった。

春季大会報告を募集した結果、自由論題15 件、テーマ別分科会9 件（当初べ切3 件、追加べ切6 件）となり、各報告・企画が承認された。また、大会の時間スケジュールについても確認、承認された。なお今後、承認された報告者には、フルペーパーの電子ファイルによる提出が求められる。（な

お、大会プログラムについては、今後、学会ホームページおよび学会ニューズレターに掲載する。)

3. 春季大会実行委員会

宮本悟会員より、5月31日、6月1日に中央大学多摩キャンパスで開催される第128回春季大会の準備状況について、順調に進んでいることが報告された。報告では、大会2日目は学食が休みとなるためその日の昼食準備（お弁当申込み）やバリアフリー環境への対応が課題になるのではないかと意見があった。

4. 秋季大会企画委員会

石井幹事より、第129回秋季大会は2014年10月11日（土）、12日（日）に岡山大学にて開催し、第一日目に共通論題を企画している旨の報告があった。現在、共通論題テーマは、「社会政策としての労働規制—ヨーロッパ労働社会との比較」（案）として企画中である。合わせて、大会の準備スケジュールが報告された。

秋季大会企画委委員の交代が行われ、中四国部会は田中裕美子会員（下関市立大、委員任期2013.10-）、九州部会は久本貴志会員（福岡教育大、委員任期2014.4-）が新たに就任した。

また例年どおり、春季大会で委員会体制は交代するが、現正副委員長は秋季大会まで、共通論題企画の仕事を継続する予定である。

5. 秋季大会実行委員会

桜井幹事より、昨年10月に開催された第127回秋季大会の大会報告と会計報告について、資料と合わせ、報告があった。大会参加者は計322名（会員278名、非会員44名）であり、懇親会119名と充実した大会となった。参加費の事前振込についても、広報の成果により、期限を過ぎてからの振込はほとんどなかった。大学からの10万円の援助金もあり、会計としても黒字になったことが報告された。

6. 編集委員会

吉村幹事より、学会誌第5巻3号（通巻16号）が3月刊行予定であり、英語論文の多い号になることが報告された。学会誌への投稿論文と審査状況、また続巻の発行スケジュールについて報告があった。6月に刊行予定の第6巻第1号（通巻17号）では、特集として第127回共通論題「住居保障と社会政策」が予定されており、第2号の特集については今後決定することが報告された。学会大会の英語報告の邦訳については、原則、その報告・分科会のコーディネーターか、あるいは国際交流委員会が担

当することが確認された。

7. 国際交流委員会

菅沼幹事より、学会誌バックナンバー論文の英文要旨の清書作業が廣瀬国際交流委員会副委員長のもとで完了したとの報告があった。今後、広報委員会を通じて、学会ホームページに掲載予定である。

本学会が交流しているヨーロッパ社会政策分析ネットワーク（エスパネット）で会員が報告する場合には、参加費助成制度を創設する提案がなされ、承認された。また、2014 年9 月のノルウェーでの大会への参加を学会員に広く呼びかけていくこととなった。今後、エスパネットに対して、社会政策学会のリンク設置を依頼し、同会員からの社会政策学会大会への参加を促す計画について報告があった。その際、英語セッションをどのような形で設けるか（個別報告、日本人との英語セッション化、英語セッションを複数設けるなど）について、また、エスパネットからの参加者に対して、大会報告参加にかかる費用の助成・免除や、申請スケジュールをどうするかについて、さらに検討を進めることとなった。

これらのことにかかわり、現行の国際交流旅費規程の規定・申し合わせについて検討の余地があることが提起され、今後、現状の課題などを整理したうえで、次回幹事会であらためて報告することになった。

韓国社会政策学会との国際交流では、専門部会の持ち回りで各部会からの企画を受け、春季企画委員会を通じて大会報告者の派遣依頼をすること、その際報告者まで決定する必要はなく、テーマだけ示せば韓国側が報告者を準備してくれることが確認された。

海外学会からの代表者の招聘にあたり、その対応体制として翻訳・通訳・アテンド等の作業にかかる支援員制度の創設について提案があった。また費用負担（謝金・アルバイト代）の基準について今後、詳細を詰めていくことが確認された。

学会の英文名については、いくつかの案がこれまで出されてきたが、幹事会の案として、以下の二つに絞り、学会会員から意見を募るとともに、最終的には総会で決定することが確認された。変更を必要とする理由について、ホームページなどで示すこととなった。

JSPA（読み方は「ジャスパ」「ジェイスパ」など）Japanese Social Policy Association JASP（読み方は「ジャस्प」）Japanese Association for Social Policy

8. 広報委員会

林幹事より、学会ホームページの英語版で学会概要を掲載する際に、各部会の英文表記の作業依頼が提起され、国際交流委員会でそれらの英文表記を検討し、広報委員会へ連絡することが確認された。

9. 日本経済学会連合報告

玉井幹事より、日本経済学会連合補助事業の募集（外交人学者招聘滞日補助、国際会議派遣補助、学会会合費補助）が行われている旨、報告があった。

10. 「経済学の参照基準」にかかわる報告者について

田中代表幹事より、日本学術会議経済学委員会で議論されている「経済学分野の参照基準」についての報告があった。

「経済史や経済制度に関する教育自体も、できるだけミクロ経済学、マクロ経済学と関連づけて行われることが望ましい」とする現委員会の見解について、その是正を求める署名への学会からの呼びかけ人として代表幹事が参加したこと、学会員へのメーリングリストを通じて「参照基準」是正への署名を呼びかけたこと、さらに現在の署名状況（1200 筆以上）と、それが継続中であることについて報告があった。また、2014 年3 月12 日に開催の「「経済学分野の参照基準」を考えるシンポジウム」には、遠藤公嗣会員（明治大学）が社会政策学会からの代表として参加することが承認された。

11. 名誉会員の推挙について

事務局より、名誉会員の候補者の検討を進め、春季大会総会に向けて幹事会から推挙する旨が確認された。現在1名の推薦があがっている。

12. その他

田中代表幹事より、学会ロゴについての案が提示された。今後、これらの案をホームページほかで公開するとともに、会員からも新たな案を募り、最終的には総会にてロゴの選定を進めることが確認された。（その後、学会英文名が未定であることから、公開の時期を遅らせることとなった。）

学会・幹事会へ要望・問い合わせの2 件について審議した。一つは、『新修彦根市史』・通史編「現代」発行中止問題の反対調停への支援についてであり、審議の結果、「社会政策研究の発展を目的として、研究者相互の協力を促進し、内外の学会との交流を図る」ことを目的とする学会の趣旨から、本件についての支援はできないという結論に達した。もう一件は、学会員（故人）の連絡先と没年の問い合わせについてであるが、学会では把握していないため、「不明」と伝えるという結論に達した。

その他、事務局から今後の学会ニューズレターの発行予定と次回幹事会の日程について、報告があり、次回は4 月6日（日）の午後に開催されることとなった。

NL79 号

11. 2012-14 年期幹事会議報告

日時： 2014 年4 月6 日 14：00～17：50

場所：立教大学・池袋キャンパス、12 号館2 階会議室

出席：石井、佐口、斎藤、菅沼、田中、玉井、所、廣瀬、藤原、矢野、山田、吉村、宮本悟（2014年春季大会実行委員会事務局）、清水耕一（2014 年秋季大会実行委員会事務局）

欠席：阿部、上原、榎、大沢、桜井、白井、武川、久本、松丸、宮本、遠藤

1. 入会申込み者について

入会希望者4 名について審議した結果、承認された。

2. 春季大会企画委員会

平岡幹事より、第128 回春季大会（中央大学、5 月31 日、6月1 日）の大会プログラム、大会ポスターの作成完了について報告があった。

大会1 日目の午後には、S. M. ジャコビー氏（UCLA）の特別講演を予定している。この特別講演について、講演パワーポイントの翻訳や討論での通訳を配置し、英語から日本語への対応を進めているとの報告があった。

分科会・自由論題報告については、今大会からの報告フルペーパーの電子化にともない、フルペーパーは会員各自でダウンロードすること、報告レジュメは各報告者が準備して持参することが確認され、さまざまな手段で会員に周知徹底することとなった。会員へのフルペーパーへのアクセス手順も、近く周知する予定である。また、大会プログラムに掲載された所属について、新年度の異動により変更を申し出た場合には、随時HP 上で対応するとの報告があった。

大会プログラムは、学会ホームページに掲載し、また開催校である中央大学の大会実行委員会から4 月中旬頃に発送する予定である。

3. 春季大会・事務局

宮本悟・春季大会実行委員会事務局より、第128 回大会（5月31日、6月1日）の開催校・中央大学の実行委員会にて、順調に大会準備が進んでいることが報告された。

大会プログラムは、すでに印刷所にわたり、会員へは4 月中旬頃に郵送予定であることが報告された。大会参加にあたり、会員の事前振込にご協力をお願いしたい旨、報告があった。

4. 秋季大会企画委員会

石井幹事より、第129 回大会を2014 年10 月11～12 日に岡山大学にて開催すること、1 日目に共通論題、2 日目に書評分科会・テーマ別分科会・自由論題を予定している旨の報告があった。

共通論題テーマは、「社会政策としての労働規制—ヨーロッパ労働社会との比較」とし、座長・森建資会員、報告者は濱口桂一郎会員、田中洋子会員、菅沼隆会員、コメントは戸室建作会員、清山玲会員を予定している。

秋季大会企画委員会の今後のスケジュールについて報告があった。従来どおり、共通論題担当は現委員会、分科会・自由論題担当は次期委員会というダブルトラック体制となるが、第129 回大会に向けて、5 月下旬～6 月下旬を目途にテーマ別分科会・自由論題の募集を予定していること、次期秋季大会企画委員会と密な協力体制をとって進めてゆく旨、説明があった。

5. 秋季大会・事務局

清水耕一・秋季大会実行委員会事務局より、第129 回大会（岡山大学）に向け、順調に準備を進めているとの報告があった。大会準備では、会場の確保、業者の手配、学生アルバイトの確保などを進めており、今後、関西地区を中心とした会員の協力体制を得ながら進めていく。

6. 編集委員会

吉村幹事より、学会誌第6 巻1 号（通巻17 号）は第127 回大会の共通論題「居住保障と社会政策」を特集とし、7 月中旬に刊行予定であること、学会誌への投稿論文・審査状況や続巻の発行スケジュールについて報告があった。

学会誌掲載の小特集に関する課題として、大会分科会としてすでに行われたもの以外の新たな独自企画については、できるだけ非会員に入会を依頼しつつ、コーディネーターと編集委員会との調整で掲載を諮っていくこととなった。

また、大会分科会での発表前に分科会報告者による小特集掲載への投稿については、発表前の段階ではその報告の全容が判明しないため、掲載は差し控えるべきとの意見があり、編集委員会での確認と議論を経て、幹事会で審議した後に掲載決定を行うこととなった。

7. 国際交流委員会

菅沼幹事より、韓国社会政策学会との交流協定に基づく派遣募集について、今回応募者がいなかったが、5 月30 日開催の韓国社会政策学会の大会へは、学会から代表者を1名派遣することが望ましかった

め、これから打診を開始する旨、報告があった。エスパネット大会への報告参加者の申請もなかったが、学会からの参加者がいることが望ましい旨、報告があった。

旧学会誌の英文サマリーについては、廣瀬幹事（国際交流委員会副委員長）の尽力によって作業が完了し、4月より学会HP上で掲載されることになった。なお、旧学会誌の原典に誤植などもあるため、今後、執筆者・関係者による確認協力を呼びかけ、随時学会HPや学会ニューズレター等で修正情報の呼びかけを行うことになった。

今春の第128回大会に関連して、特別講演をいただくS.M.ジャコビー氏（UCLA）の英語報告については、パワーポイントの日本語訳、日本人報告の要旨の英訳、当日のコメントや質疑応答の通訳などの手配が必要なことから、会員や学生_アルバイトの協力を募ることとなった。これに伴い、海外学術団体からの代表者招聘に付随する申し合わせとして、フルペーパー翻訳、パワーポイント翻訳、通訳の謝金費用を認めることが承認された。

また、128回大会の「日本・東アジア社会政策部会」（コーディネーター・朴光駿会員）において、国際交流旅費より1名を招聘することが承認された。

専門部会から第129回大会にかかわる2件の招聘企画がでており、今後、国際交流委員会で審議することとなった。

また、国際交流にかかわって、韓国社会政策学会やLERAとの交流では各大会開催日が本学会と同時期に行われるため、大会日程や大会テーマについての情報収集に努め、報告者や派遣者を確定するために今後、組織的な対応が必要である旨、報告があった。

国際交流をさらに深めるために、国際交流旅費の内容や目的をより明確化し、交流事業（海外学会との交流事業）のための「政策的旅費」や、会員が分科会などで研究者を招聘するための「国際一般旅費」を設定することが提案された。

この点は、国際交流旅費規程の改正を含めて検討し、規定改定案を次回幹事会までに提示し、第128回大会総会に諮ることが承認された。

国際交流にともなう海外研究者の報告・招聘に対応するために、翻訳、通訳、アテンドなどの作業を行う「国際交流支援委員制度」（案）が提案された。この制度について、国際交流委員会のもとに設置され、同委員会から支援員の任命や謝金の支給がなされる旨の説明があった。制度の設置や詳細内容については、次期幹事会での検討課題として引き継がれることになった。国際交流に関連して、海外学術団体からの代表者招聘に付随する費用について提案がなされ、翻訳・通訳の費用などが申し合わせ事項として承認された。

なお、費用額は固定的なものではなく、当該幹事会において状況に合わせて検討できるものとする旨、了承された。

今後は、学会大会における分科会の英語セッションの設置（可能であれば1 日英語セッションに参加可能な形）に向け、英語での報告による情報発信や外国からの学会大会参加を積極的に促進していきけるように、今後、代表幹事、春季・秋季企画委員長、国際交流委員長を中心として検討していく必要性が報告された。この課題についても、次期幹事会に引き継がれる旨、了承された。

8. 広報委員会

林幹事より、学会報告フルペーパーの電子化にともない、報告者（フルペーパー提出）、大会企画委員会（受領・掲載の確認）、広報委員会（サイト構築）の3 者間におけるフルペーパー提出・作業日程について、詳細なタイムライン表をもとに説明があった。

ファイルサイズの上限については、あらためて確認することとなった。また、会員がフルペーパーをダウンロードするために、大会開催10 日前からアクセスできるよう、体制づくりを鋭意進めているとの報告があった。今後、このスケジュールにもとづいて、作業を進めていくことが了承された。

9. 日本経済学会連合

玉井幹事より、日本経済学会連合補助事業（第1 次募集・2014 年2 月末〆切分）については応募が無く、引き続き、第2 次募集が行われている旨の連絡があった。

また、日本経済学会連合評議員の改選について、4月10日〆切で学会の評議員を確定しなくてはならないことから、引き続き、現評議員の玉井幹事、佐口幹事が担当し、次期幹事会において改めて選任することで、承認された。

10. 名誉会員の推挙について

名誉会員の推挙について、幹事会から熊沢誠会員が候補としてあがり、審議の結果、了承された。この件については第128 回大会総会で諮ることになった。

11. その他

・学会誌表紙装丁の改訂について、編集委員会、田中代表幹事とミネルヴァ書房との間で検討を重ねてきた結果、ミネルヴァ書房側から3つの案が示されるに到った。

出席した幹事全員の意見を募った結果、圧倒的多数で案の一つがよいとの判断がなされ、ミネルヴァ

書房に提案する最終案が決定された。今後、細かい要望を反映する形でミネルヴァ書房と微調整を行った上、第6 巻第1 号から学会誌表紙装丁を刷新していくことが了承された。

・学会英語名称について、田中代表幹事・事務局より、会員からの意見集約の結果（計1 件）を踏まえ、（第1案）JSPA Japanese Social Policy Association、（第2案）JASP Japanese Association for Social Policy、また会員からの意見（Japan Association for Social Policy）について、複数のネイティブからの意見を各幹事が集め、それを集約して次の幹事会で最終案を決定し、第128 回大会総会に諮ることが了承された。

・次期幹事会について、田中代表幹事より、先日第1 回次期幹事会準備会が開催され、招集された選出幹事の互選により、次期代表幹事が平岡公一会員となったことが報告された。

・次期幹事会の選出幹事の地域ブロック間の異動について、平岡幹事の提案にもとづいて審議があった。

選挙での選出後に勤務先が移動した場合、学会会則の「役員選挙に関する規程」第9 条を準用し、選出幹事については任期満了までは幹事として留任することで、この異動に対応することが了承された。

同規定同条の「任期途中で勤務先が別の地方ブロックに移っても」という部分を、「選出後に勤務先が別の地方ブロックに移っても」と変更することとなり、第128 回大会に諮ることとなった。

・事務局より、学会ニューズレター79 号（今期幹事会の最終号）では、春季大会プログラム、秋季大会のお知らせ、LERA 大会参加記、部会活動などを掲載すること、また発行スケジュールについて報告があった。

次回幹事会は、大会前日の2014 年5 月30 日を予定している。

NL80 号

15. 2012-2014 年期幹事会報告

第 15 回幹事会 議事録

日 時：2014 年5 月30（金）14：00～18：45

場 所：中央大学・多摩キャンパス、1 号館1410 会議室

出 席：阿部、菅沼、田中、玉井、所、林、久本、平岡、廣瀬、藤原、吉村、山田、猪飼周平（学会賞
選考委員会）、宮本悟（春季大会事務局）

欠 席：石井、上原、榎、大沢、斎藤、佐口、桜井、白井、武川、松丸、宮本、矢野、遠藤

1. 入会申込み者について

入会希望者22 名について審議した結果、承認された。

2. 春季大会企画委員会

平岡幹事より、5 月31 日、6 月1 日開催の第128 回大会の共通論題、特別講演、分科会、自由論題の準備状況について、順調に進行している旨の報告があった。

特に、今大会からのフルペーパーの電子化に伴い、デジタル・ファイルでのフルペーパーの提出、そのためのサイト構築と会員向けの公開について、順調に進展している旨の報告があった。

また、アメリカ労働雇用関係学会（LERA）より招聘したサンフォード・ジャコビー氏（UCLA）による特別講演について、パワーポイント原稿の邦訳や通訳体制についても準備が整っている旨の報告があった。

今後の課題としては、分科会企画受付担当やフルペーパー受付担当等の委員、また広報委員長に負担が集中しないような体制をつくること、共通論題と特別講演にかかわり、国際交流委員会と春季企画委員会との分担役割や、海外からの招聘研究者を交えた企画のあり方について検討していくこと、今期は行えなかったが、分科会企画の応募促進のために専門部会への働きかけを行うこと、一般市民に対する参加割引制度を、必要に応じて円滑に実施できるようにすることなどについて、報告があった。

今期の反省点を精査し、過重負担とならない持続可能な運営体制の形成を今後検討していく旨が説明された。

3. 春季大会事務局

宮本実行委員会事務局より、5 月31 日、6 月1 日の第128 回大会の開催にあたり、順調に準備が進んでいる旨の報告があった。事前申込は大会参加207 名、懇親会109 名と例年より多かった。

4. 学会賞について

猪飼学会賞選考委員より、第20 回（2013 年）学会賞選考委員会の選考経過について詳細な報告が行われた。

2013年度の社会政策学会賞・学術賞は、伊藤セツ『クララ・ツェトキーン—ジェンダー平等と反戦の生涯—』（御茶の水書房）と決定した旨の報告がなされ、幹事会で了承された。奨励賞については、該当者はいなかった。

学会賞のあり方については、(1) 学術賞・奨励賞の枠とは異なる「特別賞」を新たに設けるか、(2) 学会賞には選ばれなかったが学会の共通認識としたい作品をどう周知するか、(3) 学会で共有すべき研究の様々な方法論を若手にいかに伝えていくか、(4) 学会賞の選考対象作品を過去1 年の範囲ではなく2 年に延長するか、(5) 今後、学会賞選考作品についてのデータベース作成にあたり、専用ソフトウェアを使用する可能性、などについて議論がなされ、今後の検討課題としていくことが了承された。

5. 広報委員会

林幹事より、フルペーパー閲覧サイトの構築について、第128 回大会での準備経過を踏まえ、今後の大会におけるタイム・スケジュールの報告があった。

また、海外から同サイトへのアクセスが現況では不可能であることが判明したため、この点を改善することが決まった。

6. 秋季大会企画委員会

藤原幹事より、今秋の第129 回大会（岡山大学、10 月11日、12 日）の開催準備状況について順調に推移している旨、報告があった。書評分科会の選定作業にかかわる評者の決定を終え、大会に向け順次スケジュールに沿って進めていく。

7. 編集委員会

吉村幹事より、学会誌の発行スケジュールについて報告があった。直近では6 巻1 号が2014 年9 月に刊行予定である。小特集については、部会活動および大会でのテーマ別分科会報告を受けて、その成果を発表する主旨にのっとり選考を進めていくことが確認された。

8. 国際交流委員会

菅沼幹事より、今期の国際交流委員会の活動報告が行われた。今期は、英文ホームページの充実を行い、代表幹事挨拶、幹事会紹介、過去の大会共通論題や学会誌論文サマリー、大会プログラム・スケジュールとサマリー等を掲載したことが報告された。

また、韓国社会政策学会に2012 年、2013 年と2 人の会員と田中代表幹事を派遣し、韓国側からも各2 名の招聘を行ったこと、今後は春季大会企画委員会で韓国との交流担当部会を決め、秋季大会で分科

会を持つことが確認された。

また、田中代表幹事の働きかけにより、ヨーロッパ社会政策分析ネットワーク（エスパネット）との交流を開始し、2013 年春にM・レオン教授を共通論題に招聘、同年9 月のエスパネット大会で田中代表幹事と菅沼国際交流委員長がエスパネット側と交流継続を約束したことを確認した。

今後、具体的には、大会の情報をエスパネットに英文で早く知らせる参加を呼び掛けもらうことや、参加申し込みがあった場合は、その報告を含む英語セッションを設けていくこととする。また、多くのエスパネット会員が7 月に他学会で来日予定のため、新幹事会から連絡してほしい旨の要望があった。

アメリカ労働雇用関係学会（LERA）についても、2013 年1月の大会に田中代表幹事・関口国際交流委員が大会に参加し、LERA 側代表と相互交流を約束した。

2014 年春季大会にS・ジャコビー氏を招聘、今後もパートナー関係を継続することが確認された。

第 128 回大会における英語での特別講演について、通訳・翻訳アルバイトや招聘者のアテンドの体制について説明があった。国際交流の進展のために、財政的および人的協力体制を整えていく必要性から、現行の「国際交流旅費規程および申し合わせ」についての改正案が提起され、了承された（会則・諸規程改正を参照）。

今後の国際交流委員会の活動について、エスパネット・LERA との学術交流の継続と定着、他の学会との交流可能性、英語分科会の終日化、中国との学術交流、学会誌英文化等の検討、国際交流支援制度の充実、ホームページの多言語化などが提起され、次期幹事会で検討されるべき課題とされた。

9. 学会英語名称について

田中代表幹事より、学会英語名称について、前回第14 回幹事会の後に情報収集を行い、数多くのネイティブ・チェックを受けて精査した結果、現行の学会英語名称 Society for the Study of Social Policy（SSSP）から、改正案としてJapan Association for Social Policy Studies（JASPS）（読み方は「ジャスプス」）に変更することを大会総会に諮ることになった。

10. 総会資料について

事務局より、総会資料（案）について報告があった。2014 年度の活動方針案、規程改正案などについての資料内容を確認した。また2013 年度の決算報告書（監査日：2014 年5 月12 日、遠藤公嗣・会計監査）について確認が行われた。

11. 学会誌表紙の改訂について

田中代表幹事より、ミネルヴァ書房からあがってきた学会誌の装丁の最終候補案が紹介された。

幹事全員の意見を聞き、最も多くの賛成を得た案を幹事会の最終案として決定した。新装丁による学会誌発行は6巻1号からを予定している。

12. その他

事務局より、大会1日目（31日）の幹事会日程のお知らせがあった。

第16回幹事会 議事録

日時：2014年5月31（土）12：20～12：55

場所：中央大学・多摩キャンパス、5号館2階、兼任講師控室（5206室）

出席：石井、田中、久本、藤原、吉村、山田

欠席：阿部、上原、榎、大沢、斎藤、佐口、桜井、白井、菅沼、武川、玉井、所、平岡、廣瀬、林、松丸、宮本、矢野、遠藤

1. 総会資料について

事務局より、総会資料（案）について最終確認が行われ、了承された。

石井幹事より、総会での報告にかかわり、「大学の自治を否定する学校教育法改正に反対する緊急アピール・共同署名」について説明があった。本件が学会員の研究・教育環境に影響する法改正であり、改正が間近で緊急性を要することから、一幹事として、総会および会員向けメールでアピール文の説明を行うことが提案され、了承された。